

雷雨を予告する鳥と家族の再生の物語

〔春木律さんによる「変身をめぐる物語」〕

春木さんの創作ポイント

それぞれの課題文の共通点を〈鳥が持つメッセージ〉と読み解き、『雷雨の予告』を表象するアオゲラを中心に物語を展開させた！

・課題文との関わり、「アオゲラ」を選んだ理由、調べ方について
↓「あれは緑啄木鳥よ」「アオゲラ？」母さんの一言に、素っ頓狂な声が出た。

・「変身をめぐる物語」というテーマをどう盛り込んだか

↓「二羽いるけど番いなのかしら。すごく仲が良く見えるね。そういえば私のお父さんとお母さんも周りからよく、おしどり夫婦って呼ばれてたっけ」

↓写真には一人の少女とその両親であろう人物が写っている。この少女は幼い頃の母さん。

・語り手を一人称の「僕」にした理由

↓父さんが単身赴任でいないので、僕がこの家では父親代わりだ。

・雷雨の予告と物語の繋がり

↓ピョーピョー。また緑啄木鳥の指笛のような鳴き声が聞こえ始めた。〈中略〉急に雨が降り始めた。

↓「さっき話してた緑啄木鳥がいた木があるでしょう？その木に雷が落ちて家まで燃え移ってきってしまったの。」

↓「たしかにあの写真は、私の宝物だったけれど……。私にとってはね、あんた達が無事だったことのほうが、何よりも大切なよ」

物語の結末、家族の物語にした理由

↓引越しが落ち着いてきた頃、家族全員で写真館に来た。燃えてしまったものはもう戻ってこないけれど、新しく思い出を作ることができるはずだ。

↓家の一部が燃えてしまったのは災難だったが、引越すことになって家族の仲は前よりずっと仲良くなった気がする。

↓もしかしたらこれは旅立っていった緑啄木鳥から僕たち家族への贈り物だったのかもしれない。